

研究授業報告

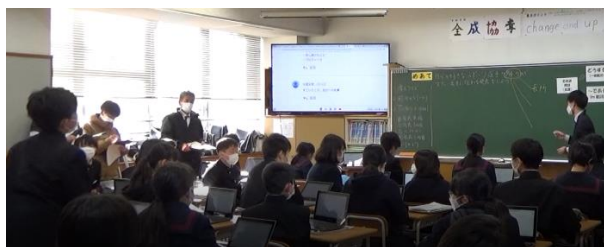
1月25日(水)6限	校内授業研	学年教科	1年 英語
授業者	協力者	指導助言者	司会・記録
白根 和延 教諭		田代 和馬 指導主事 (大分県教育庁義務教育課)	司会:草場 博文 記録:英語科
学習内容	単元 Lesson 7 Wheelchair Basketball 「尊敬する偉人の魅力をマチュー先生に伝えよう」		
本時のねらい	自分の好きなスポーツ選手の魅力を、その人物の功績や特徴に自分の気持ちを添えてマチュー先生へ伝える練習をする活動を通して、即興的に伝えることができるようにする。		
「問い」を生み出す工夫	○自分の好きなスポーツ選手の魅力がマチュー先生に伝わる発表をしよう。(題材の工夫) ○クラスメイトの発表のよいところから学ぼう。		
協議の柱	①授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 ②授業者が抱える問題(課題) 即興表現活動の中で、学習者が知識を積極的に使おうとしながら、正しさや良さを吟味し合う授業にするにはどうすればよいか。		

【授業の様子】

帯活動 偉人クイズ 表現方法を確認します



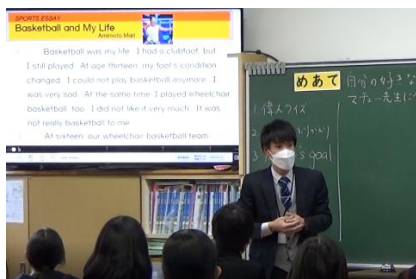
「何を紹介するか」端末で共有し、意見を発表します



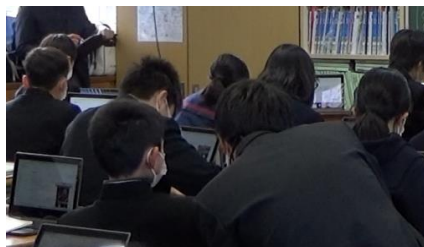
話し手、聞き手、聴衆と役割を決めて活動します。



デジタル教科書で前時の学習内容を振り返ります



検索して情報を集め、発表する準備をします



他者の発表の優れた点を交流して、改善に役立てます



事後研報告

協議の柱	①授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 ②授業者が抱える問題(課題) 即興表現活動の中で、学習者が知識を積極的に使おうとしながら、正しさや良さを吟味し合う授業にするにはどうすればよいか。
------	---

【授業者の振り返り】

話すことの中でも発表する力をつけさせたいと考え、「ALT に好きな選手の魅力を伝える」を活動の柱にして単元計画を立てた。その前段階の授業である。
 生徒がどのように伝えるか、発話の内容について困りを抱えていた。即興表現活動をどのように進めるかは私自身の課題である。

【質問】

質問	回答
「ALT に伝わる」とは何ができればよいかを共有できているか。	ALT に対して確認する表現をいれながら話すことができている。(やりとり) Do you know him? / be good at ~などが出ていたので良かった。
「話すこと」の活動に対して、普段どんな手立てをとっているか。	原稿を書いて覚えて伝えることもあるが、即興性が求められているため、その要素を踏まえて、マインドマップのみ使わせて伝えさせる方法をとることがある。メモをもとに話すようにしている。
発音の指導をどうしているのか	発音については 新出単語の練習、本文の中で音と音のつながりに着目させ日々の授業の中で指導している
「発表=スピーチ」というイメージがある。即興性はその場でやり取りする「対話」のイメージがある。今日のような活動は、「即興的」と言えるのか。	本当の意味での即興性とは言い難いが、段階的な指導の一つと考えている。本当の意味での「即興的なやりとり」に発展させたい。
「自分の気持ちを添えて」の部分は今日の授業の中で指導があったのか。	指導は不十分であったが、「He is great.」や「I think he is~.」などを用いていることで自分の気持ちを添えていると捉えることにした。「自分の気持ちを添えて」が、今日の授業の評価基準1つだったのでもう少し丁寧に指導をすべきである。

【グループ協議】 授業者の困りを解決する手立てを考える。

- ※「魅力」の視点はどうだったか。(授業の中では長所・成し遂げたこと・知名度と設定した。)
- ※生徒の動きが良くなるにはどんな手立てをとればよかったか。

- 「だれ」について語るか決める時間を大事にするとよい。(自己決定の場)
- 「魅力」とは何をさすのか、羽生選手のクイズのときにモデルを示す。
- 教科書の文を拾っている生徒がいたら、その生徒に発表させる。
- 言いたい表現がわからないにとって、教え合いの場を設ける。
- 伝えるのは、検索した「情報」ではなく「魅力」であることを意識して活動させるようにする。
- 即興するための引き出しとなる「インプット=聞く・読む」の部分を授業で積み重ねる。
- 「I」メッセージを大事にする
- 発表の手順をシンプルに整理する。(定期的に行い、自動で動くようにする。)
- C 層への手立てとして、何を教え合うか明確にする。
- 「過去形を使って伝えている姿」を披露する場面をつくる。

【指導助言】

学習指導要領から5つの領域になっている。(話すことが「発表」と「やり取り」に分かれた)大分県の中学校の課題、一番苦手としているのは「読む」と考える。英語の問題は、長文になっている。だから全ての英文を訳していくようなことはしない。英語教育は、過渡期を迎えている。

授業については、3つの視点で振り返ります。

- 「過去形を使わなくていいのか？」の質問について、日常会話では文法を意識していない。文法を使うこと自体を目的としないならば、使いたくなるような場面設定をすべきである。今日の授業では過去形を使わなくても好きなスポーツ選手について語る事ができた。例えば、「功績」とすると過去形を使うことになる。思考・判断・表現等に係る言語活動の授業では、授業者が場面や状況のなかで英語力を育成していくようにする。

指導要領にも「場面や目的を設定しましょう。」とある。今回、発信する相手である「マチュー先生」をどれだけの生徒が意識していたかということも押さえてはならない。今日生徒は意識していなかったと思う。

- 「自分の気持ちを添えて」の指導では、指導案の本時のねらいに「自分の好きなスポーツ選手の功績、特徴、自分の気持ち」とあるので3つを必ず指導しないといけない。ねらいとして設定したならば生徒に意識させて活動することを促すことが大事である。
- 指導と評価の一体化については、中間指導で「He is good at~.」などを取り上げたのならば、2回目の発表後にできているかを見取る必要がある。1回目に功績や選手としての特徴に触れていなかった生徒が、2回目には、「Do you know him?」「He is good at full swing.」と言えることができていた。

単元指導計画にある評価(記録に残す評価)については、「書く」、「読む」はワークシート等記録に残るため可能であるが、「話す」に関しては机間巡視だけではやはり無理である。端末に録音させるなど工夫が必要である。記録に残す評価に絞ったのであれば、必ず評価できるようにする。指導したことを必ず評価して、評価しようとしたことを指導するようにすべきである。

【振り返り】

- よく準備をされた授業であった。生徒も一生懸命に頑張ろうとする様子がみられた。ねらいが膨らみすぎたため、授業者と学習者がすべきことを共有できず説明が長くなっていた。1時間の授業の中で英語表現を聞かせる読ませる場面や表現させる場面をもっと増やす工夫をすることが大切だと感じた。
- テンポが良く生徒がいきいきしながら活動していて良い授業だと思った。指導と評価の一体化についての話を伺い、「評価するなら指導を」「指導をするなら評価を」という言葉がとても印象に残った。
- 得意でない生徒も頑張っており、全体的に積極的に取り組んでいた。内容・活動が多かったため、広く浅くというような印象を受けてしまったが、これから改善して彼らの力をさらに伸ばしてほしいと思った。
- 生徒の活動をどのように仕組むと良いかを考えるきっかけになった。自分の授業改善に活かしたい。
- 英語の即興は非常に難しいと感じる。生徒の活動に対する指導と評価の責任を感じた授業であった。
- 国語科に、とても活きる授業を見せていただいた。言語活動の中で資質・能力を育成するという共通点をもつ教科として、大変勉強になった。
- 最初のクイズなど真似したい部分が多くあった。授業のスピードは、全体的に早いなと思った。行動を早くするためには、積み重ねが大事だと思う。
- 生徒と教師の「共に」が大事だと改めて感じた。日頃から教師と生徒との積み重ねが信頼関係につながる。